

2023年4月10日

大阪府知事選の結果について「明るい会」常任幹事会声明

明るい民主大阪府政をつくる会
常任幹事会

- (1) 4月9日投開票の知事選挙では、明るい民主大阪府政をつくる会が擁立した、たつみコータロー候補は、26万3355(8.0%)を得たものの、及びませんでした。
- ご支持ご支援をいただいたみなさん、ともに勝利をめざして活動されたすべてのみなさん、「明るい会」のすべての構成団体・構成員のみなさんに心より感謝申し上げます。そして何よりも困難をいとわず、知事候補者として敢然と奮闘された、たつみコータローさんに心より敬意と感謝を送ります。
- (2) 「明るい会」としては、12年ぶりに独自候補を擁立して知事選挙をたたかいました。たつみコータロー候補を先頭に、「維新府政」と真正面から対決し、転換すべき政策を示したわかりやすい論戦で、多くの府民に響くものになりました。
- 最大の焦点となった「カジノ（IR）」問題では、維新は当初から「争点外し」を決め込んでいました。しかし、たつみ候補がテレビ討論などで、「ギャンブル依存症問題」「788億円の公金支出」「安すぎる賃料疑惑」を厳しく追及すると、「面積はIRの3%」「依存症対策を進めるので問題ない」などと逃げる姿勢に終始し、「リスクはあるが、何もしないのは無責任」と居直りに転じました。
- 「新型コロナ対策」について、たつみ候補が保健・医療体制の削減から「拡充への転換」を根本問題として提起しました。維新は、全国一のコロナ感染死者を生み出した実態も、その検証も、今後の対策も、まったく触れていません。
- たつみ候補は、物価高対策、高すぎる国保料の引き下げとともに、「グリーン・ニューディール」という成長と雇用を増やす対案を示しました。
- 教育問題では、「教育無償化は当然のこと、問題解決には先生を増やし、少人数学級の実現で、子どもに寄り添う教育を」と主張し、大阪の教育のひどい実態を示して、その転換策を提起しました。こうした主張は、今後の大阪の進むべき方向を明るく照らすものになりました。
- (3) 維新が府政の焦点となる大問題では、まともに論戦に応じることなく、ごまかしと守勢に陥りました。争点をそらすために、「過去の大阪に戻すか、前にすすめるか」という「虚構の土俵」を持ち出し、「府市一体で大阪を成長させた」「身を

切る改革で財政を立て直した」「相手は自民から共産まで一人の候補者を推している」など、事実と異なる宣伝をする始末です。大阪市議選での大量の立候補をはじめ、維新が総力あげた組織戦での攻勢や長年にわたるメディアのたれ流し、自民党などが正面から反撃できないでいることも相まって、こうした「虚構の土俵」は今なお広く沈殿しています。こうしたもとで、吉村知事と横山氏が市長選で勝利し、府議会・大阪市議会過半数議席を得たことは、大阪の前途に新たな困難と障害をもたらすことになりましたが、それで大阪の矛盾は解消されることはなく、ますます拡大することは明らかです。

(4)「明るい会」の活動には、たつみコータロー候補を先頭にとりくんだ「トークライブ」や「ほっとカフェ」、多様な府民と双方向でつくりあげた「レインボー・プラン」、重点を鮮明にした「会」機関紙の発行、SNSの活用など、「#たつみコータローとつくる」を合言葉にして、新たな前進面がありました。

しかし、「明るい会」として、選挙本番体制へ迅速な確立とともに、維新支持者や支持なし層に働きかける日常的な活動の強化など課題が浮き彫りになりました。

今後とも総括にあたり、広く支持者や府民のみなさんの声、各団体・地域連絡会の意見を集めて、いっそう前に進めていく決意です。

(5)選挙戦で示された各種世論調査においても、「カジノ誘致」について、およそ府民合意を得ていません。維新が争点をそらすもとで、この選挙で「民意を得た」とは到底言えず、このまま「カジノ誘致」に突き進むことは断じて許されません。引き続き、世論と運動を大きく広げ、カジノ誘致ストップに全力で取り組みます。

また、新しい大阪府・市政には、コロナ対策、物価対策、国保負担増問題、教育問題など、今回の選挙戦でいっそう浮き彫りになった課題が山積しています。

国政でも、「大軍拡路線」に加担する維新の姿がいっそう明らかになり、維新を支持した府民との矛盾が露わになるのも確実です。

私たち「明るい会」は、維新政治に対して真正面からのたたかいをさらに大きく展開し、知事選で掲げた府民要求や政策の実現へ、広範な府民のみなさんと一緒に進めるものです。

以上